

季良

2011年(平成23年)7月18日(月曜日)

仮設支援 全国から

遊びの楽しさを伝える

鳥取のNPO 大船渡に

スポーツを通じた地域づくりなどに取り組む鳥取県米子市のNPO法人やまつきスポーツクラブ(広江正理事長)は17日、大船渡市を訪れ、仮設住宅や避難所で生活する子どもたちと遊びを通じて交流した。大船渡高出身で同クラブの専務理事を務める下屋敷恒太郎さん(29)が中心となり、被災地での支援活動が実現。鬼ごっこやボール遊びなどを一緒に楽しみ、子どもたちに遊びの楽しさを伝えた。

同スポーツクラブ職員ら5人が、同市大船渡町の旧県立大船渡病院跡地の仮設住宅を訪



やまつきスポーツクラブのメンバーと遊び「ろくむし」を楽しむ子どもたち—大船渡市

問。集まった5人の子どもたちと一緒に、ゴムボールを使った遊び「ろくむし」や鬼ごっこ、めんこ遊びなどを楽しんだ。

同仮設住宅で家族5人で暮らす大船渡小の新沼瑞綺さん(5年)は

「一緒にたくさん遊ぶことができ、楽しかった」と汗を拭いながら笑顔を見せた。

被災地での活動の中心となった下屋敷さんは盛岡市出身。サッカー選手として活躍し、現J2のガイナレ鳥取や東北社会人サッカーリーグ1部のグルー

プの独自キャラクターに扮し、覆面姿で子どもたちと一緒に走り回った。「子どもが遊びを楽しむ気持ちはどこでも同じ。楽しい時間を共有できて良かった」と目を細めた。

同日は避難所となっている大船渡地区公民館でも活動した。18日は赤崎漁村センターで交流する予定。

楽しもう「公園遊び」

加茂公園、漁村セで開催

大船渡

NPO法人やまつみスポーツクラブ主催の「復活！公園遊び」が17、18の両日、大船渡市内で開かれる。おにごっこ「けいごろ」など、昔ながらの身体を使った遊びを楽しむイベントで、来場を広く呼びかけている。

同クラブは、鳥取県米子市を拠点とし、スポーツの楽しさを伝える活動を展開している。東日本大震災で被災した地域の子どもたちに道具を必要としな

い遊びを伝えながら、身体を動かす楽しさを再確認してもらおうと企画した。

運営には、平成12年度大船渡高校サッカー部卒業生が協力。17日は午後2時から同4時まで大船渡町の加茂公園で、18日は午前10時から正午まで赤崎町の漁村センターでそれぞれ開催する。

会場では「おにごっこ」をはじめとした駆け回る遊びのほか、めんこやおはじきの魅力

も伝承する予定。入場は無料で、子どもだけでなく大人の参加も受け付ける。問い合わせは同クラブの下屋敷さん（Tel 090・9630・3713）へ。

2011/7/16(土)

東海新報



2011/7/19(火)

東海新報

真夏の公園に歓声

小学生に遊び「伝授」

大船渡

NPO法人やまつみスポーツクラブ主催の

「復活！公園遊び」は17、18の両日、大船渡市内で開かれた。ひと工夫を加えた昔ながらの遊びが繰り広げられ、子どもたちの歓声が響き渡った。

同クラブは鳥取県米子市を拠点とし、各地でスポーツの楽しさを伝える活動を展開している。

東日本大震災の被災地で道具を必要としな

い遊びを伝えて子どもたちの元気を呼び込もうと企画し、平成12、14年度の大船渡高校卒業生が協力した。

17日は大船渡町の加茂公園、18日は赤崎町の漁村センターで開催。このうち、加茂公園では町内在住の小学生ら約20人が参加した。

子どもたちの前には、マスクを被った「妖怪のガキ大将」が登場。さまざまな遊びを「挑戦状」として提案し、ルールを説明しながらともに身体を動かした。

このうち「だるまさんがころんだ」は、鬼がボールを手放している間だけ近づけるルールで行われた。放り投げようと見せかけるフエイントに騙されまいと、子どもたちはガキ大将との駆け引きに集中。汗びっしょりになって駆け回っていたが、暑さを忘れ遊びの楽しさに熱中していた。

ガキ大将役を務めた同クラブ専務理事の下屋敷恒太郎さん(29)は盛岡市出身。同校卒業生で、サッカー部主将としてインターハイにも出場。「金銭面や物資面での支援はできませんが、心のゆとりを提供したいと考えていました。楽しさを追求した遊びを一緒に体験できて良かったです」と話していた。

下屋敷さん扮するガキ大将と一緒に遊ぶ子どもたち。大船渡町